

4 「ヒヤリ・ハット報告活動」について

○それってなに？

「作業中に、もう少しで墜落しそうになった」「バルブを閉め忘れ、有害物が漏れ中毒になりかけた」など、ヒヤリとしたことやハッと気づいて、肝を冷やしたことはだれもが一度や二度は経験しているのではないのでしょうか。その時は事故や災害にならなかったとしても、次はどうなるかは分かりません。

ヒヤリ・ハット報告活動とは、作業中にもう少しでケガをしそうになったり、中毒になりかけたりするなどヒヤリとしたことや、ハッと気づいたこと、目にとまった同僚の危険な行動などを危険情報として記録し活用する安全衛生活動です。ヒヤリ・ハット報告の中には、大きな災害に繋がりがかねない、重大な問題が隠されていることも少なくありません。こうした報告を見逃さず、即座に適切な対応を講じることで災害を未然に防ぐことが出来ます。

なお、重大なヒヤリ・ハット報告は、他工場・同業他社からの災害事例とともに、リスクアセスメントの「危険性又は有害性の特定」を行う際の貴重な情報となります。



加工物が不意に外れ、当たりそうになった



クレーンのつり荷が揺れ、落下しそうになった



フォークリフトの積荷が落下しそうになった

一歩間違えば
危なかった



ヒヤリ・ハット報告書(例)

氏名	職種	経験したヒヤリ・ハットについて、その原因と思われることを選り出し、該当するものをチェックしてください。
ヒヤリ・ハットのあらまし	いつ 月 日 (曜) 午前 午後 時 分 ごろ	
	どこで	1 [] よく見えなかった [] 見にくかった [] よく聞こえなかった [] 気がつかなかった [] 見落としをした
	どうしていたとき	2 [] 思い出せなかった [] 記憶がいがいしていた [] すっかり忘れていた
	ヒヤッとしたこと	3 [] 知らなかった [] 分からなかった [] 深く考えなかった [] 急所に気がつかなかった [] 複雑で分かりにくかった [] 安易に考えていた [] ほかのことを考えていた
	改善すべき事項	4 [] 事実のとらえ方が悪かった [] 予想ちがいをした 5 [] 危ないと思っていなかった [] 大丈夫だと思った
現場の見取り図	6 [] 仲間の迷惑を考えなかった [] 頭がイライラしていた [] カッカしていた [] いやな気持ちで仕事をしていた [] 心配ごとが頭についていた [] 反復作業であきていた [] 連続作業で疲れていた	
責任者のコメント	7 [] 大丈夫と思って手順を省略した [] ふんぎりがつかぬままやった [] 面倒臭がってやった [] 考えてはいたが、やるときに忘れた 8 [] 力負けた [] 身体のバランスを崩した [] 手が思うように動かなかった [] スピードについていけなかった 9 [] 無意識に手が動いていた [] なんとなく手が動いていた [] 考えていてもやれなかった [] 手や体が正確に動かなかった [] やりにくかった [] むずかしかった	
備考		

○ヒヤリ・ハット報告は提出されてこそ、その効果を発揮します

ヒヤリ・ハット報告は、当事者の責任を追及するためではなく、貴重な危険情報を全員で共有し解決を図ることをねらいとした活動であることをきちんと確認しておく必要があります。

報告の中には、その作業の担当者でないと明らかにすることが出来ない設備の潜在的な問題を表すものであったり、だれもがミスを生じさせるような作業方法が明らかになったりするケースがあります。そんな時に「なぜこんな危険な作業をしたんだ！」と報告した作業者を叱るようなことがあってはなりません。

ヒヤリ・ハット報告の提出は、災害の未然防止や作業の安全化に繋がっていくものであり、きちんと評価した上で適切な対応を講じることが求められます。